

不登校経験者が不登校支援者へと移行するプロセス

－支援者の育ちの一考察－

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
中島 利奈

本研究は、不登校経験者が不登校支援者へと移行したプロセスに注目し、不登校経験の捉え方や支援者としての支援のあり方について検討することを目的に行われた。不登校経験を有する不登校支援者8名を対象に半構造化インタビューを行い、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)を用いて分析を行った。その結果、8個のカテゴリーと39個の概念が生成された。

【不登校の理由と不登校の捉え方】は多様で、様々な形で不登校支援を体験し、【周囲からのまなざし】がある一方で【支援を受けていない】ケースも存在した。不登校後は、本来の自分の持つエネルギーを生かす【エネルギーの活用】も生じ、不登校支援者へと移行する中で【不登校経験の捉え方の変化】が生じる。不登校支援者となってからは、【不登校経験が不登校支援に与える影響】があった。その後【支援者としての気持ちの整理と変化】が生じ、【支援者としての不登校経験の意味】が再構築されることが明らかとなった。

以上より、自分と向き合い本来のエネルギーを生かす動きがあり、不登校という枠を取り除いた本人たちの力強さが存在した。このことに周囲の大人が目を向け、その環境を整え肯定的な評価を行うことが一つの重要な支援につながると考えられた。また、不登校からの回復の捉え方は様々であり、自身の不登校経験に対して割り切れない思いを抱えつつも支援を行っていることが可能性として示唆された。